

『すべての人に仕える者になりなさい』

使徒たちが「誰が一番偉いか」と議論し合っていると、イエスは彼らに言われた。「一番になりたい者は、最後の者になりなさい。すべての人に仕える者になりなさい」。使徒たちは、世間で一番になろうとしていました。社会で成功することを望んでいました。彼らは、自分の望みを神に願っていましたが、神の望みを実現することを神に願っていませんでした。これでは、天の国に入ることは出来ません。聖人になれません。聖人になるために、何が必要でしょうか？自分の個人的な望みを捨て、神の望みを受け入れることが、第一です。神の望みとは、「すべての人に仕える者になりなさい」です。

イエスは次のようにも教えています。『一粒の麦の種が地に落ちて、死んだら多くの実を結ぶ。自分に死ななければ、そのまま残る』。この言葉は、自分のためだけに生きる人生は虚しく、すべての人に仕えるなら豊かな人生になり天国に入る、と教えます。人間は「一人では生きていけません」。それは、人間の弱さから来ます。すべての人は、助け合うように招かれているのです。赤ちゃんや老人だけではありません。一人前の大人も、自分の顔さえ自分で見る事が出来ないのです。だから、自分のことだけ考えて生きるのは思い上がりに他なりません。

もう一つ、理由があります。それは「人間は一人では幸せになれない」という真理です。アダムは楽園で何不自由なく暮らしていましたが、心は満たされませんでした。「あなた」と呼べる対等な人がいなかったからです。神は「一人でいるのは、よくない」と語り、エバを創造したのです。人は、自分の命より大切な人に出会うことで、幸せになります。誰かに仕える事は、人を愛することなのです。仕えない人は、愛を知らない人です。一人を愛する人は、一人分の愛を持つ人。すべての人に仕える人は、すべての人を愛する大きな心を持つ人。そんな人は、イエス・キリストしかいません。イエスと結ばれた人、イエスと「交わり」を持つ人だけが出来るのです。

ここから一つの結論が導かれます。「一人では聖人になれない」という真理です。いっぱい祈っても、たくさんの犠牲を捧げても、愛がなければすべてが虚しい」のです。聖人になりたいのですか？それなら、目の前の人に仕えなさい。遠くまで探しに行く必要は、ありません。現実の生活の中で、仕事の中で、仕えるチャンスは、もうあります。好き嫌いせずに、現実を見直しましょう。リアルな人生こそ、聖人になるチャンスです。明日ではなく、今日、今こそが「幸せになる」時、「聖人になる」時なのです。聖母マリアは、馬小屋という現実、ナザレの平凡な現実、十字架という厳しい現実を通して聖なる方になりました。 ■2024/09/22 (fr. Sachio KODERA) in Nagasaki